

## 地域における公益的な取組～「気楽な拠り所:地域の縁側かわうそ」

社会福祉法人 光友会（神奈川県）

**住 所** 〒 252-0825  
神奈川県藤沢市瀬郷 1008-1

**T E L** 0466-48-1500

**U R L**

**経 営 理 念** 基本理念：障害者には、同世代の健常市民と同様の「当たり前」の生活を営む権利すなわちあらゆる面での「完全参加と平等」の権利がある。これを保障するためには、全ての面での条件整備が必要である。

**事 業 内 容  
及 び 定 員** 施設入所支援（60名＋短期入所18名）1か所  
就労支援事業 A・B・移行型（70名）2か所  
生活介護事業（20人1か所、40人1か所、60人2か所）  
共同生活援助事業6か所（9人1か所、6人1か所、5人2か所、4人2か所）  
児童発達支援センター（学齢前児童60人・藤沢市指定管理者委託）  
放課後等デイサービス（10人3か所）  
居宅介護・重度訪問・同行援護・訪問介護各事業（サービス提供責任者3人）  
相談事業（藤沢市委託：障害者総合、高次脳機能障害・地域包括支援センター）  
収益事業（老人福祉センター食堂・就労部門給食経営）

<b>収 入</b> (法人全体) 平成29年度決算	①社会福祉事業	1,861,402,773円
	②公益事業	69,916,543円
	③収益事業	65,699,604円

**職 員 数** 363名（非常勤156名含む）  
(法人全体)

**当 面 する  
経 営 課 題** 今までの既存のサービス支援を制度に則して実施するだけでなく、今後、日本における障害者福祉他ジャンルと連携して、何を、どう進めるべきか、研究もしながら、ビジネスモデルを構築

たのしみながら

ちいき

と

が

つながる

ゆるーくつながる場所になる

社会福祉法人 光友会

## 神奈川県について

県庁所在地は横浜市。

人口は約918万人で東京都に次ぐ第2位

人口密度は東京都、大阪府に次ぐ第3位

県内総生産は東京都、大阪府、愛知県に次ぐ第4位となっている。

県内の政令指定都市数は3つと日本最多で、面積は第43位の規模である



## 藤沢市について

神奈川県南部中央に位置する、相模湾に接した市で13地区で構成されている。

人口は、約43万人、自然や住・教育環境等を求める人などにより人口が増加している。

「藤沢市型地域包括ケアシステム」のもと市は、「地域の縁側」の設置を推進している。



## 地域の縁側事業について

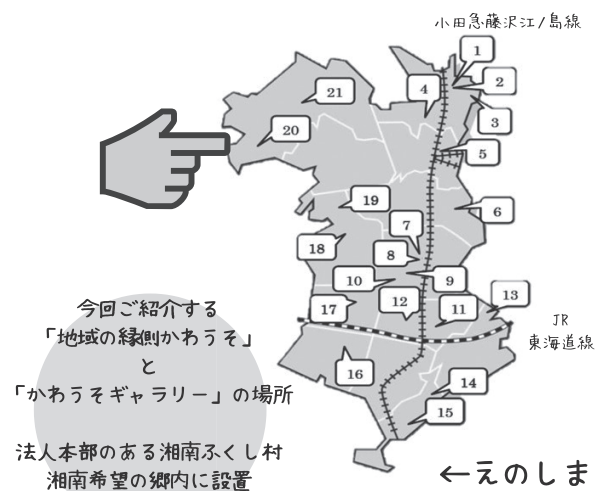
①誰もが気軽に立ち寄れる「居場所」

\*基本型と特定型がある

②気軽に相談ができ、必要に応じて専門的な相談機関や必要な支援につながるような相談の仕組みができていくこと。

「地域の縁側事業」として登録して実施するが、なにをやるか、どう人に来てもらうかは各々が考えて工夫している。運営主体も様々。

## 藤沢市地域の縁側マップ





自然豊かで、田んぼや畑、植木屋さんなども多く  
このような光景も見かける「のどかな地域」です。  
比較的、地域のつながりも残っています。

## 御所見地区について

- 御所見地区は、神奈川県藤沢市の西北部に位置し、北西に綾瀬市、海老名市、南西に寒川町、茅ヶ崎市と接している。現在約1200haの面積に約17000人が居住している。



## 光友会について

私どもの法人は約40年前に盲学校の進路指導担当で  
本人自身視覚障害者である創設者を中心に事業展開を  
してまいりました。

現在では、藤沢市全域、寒川町、横浜市磯子区の  
2市1町で障害児・者福祉サービスを中心に20を  
超える事業を展開しています。

激変する福祉を取り巻く環境と、当事者ニーズを的確  
にとらえ「ゆりかごから墓場まで」即ち生まれた時から  
一生を終えるまでを心を込めて支援してまいります。

## ごあいさつ



五十嵐 紀子 理事長

# mission

社会福祉法人の強みを活かし  
高齢者、障がい児・者、青少年、子ども等  
多世代が集え、交流できる場所を  
具現化せよ

\*法人理念につながる考え方である

全国生活者1万人意識調査（2017年度）

社会福祉法人の認知度と課題

知っている・・・・・・・・・・22%  
言葉だけ知っている・・・・64%  
知らない・・・・・・・・・・14%

要因と課題

発信不足・接点不足・対応不足

## 地域でより身近な存在に

地域でどのようなことが必要とされているかを把握するためには、光友会が地域の方々にとって、より身近な存在になることが必要。

改めて地域との向き合い方を考える契機ととらえよう。。。

## 地域ニーズを把握する

パーソナル化が進む現代

人間関係の希薄化

ニーズも個別化・潜在化

⇒集いの場はアンテナでもある

地域アンケート調査では、高齢世代と幼稚園に通う前の子育て世代は居場所が少ないと感じているようだ

若い世代にとってのこれからのつながり方って？

集いの場は困りごとをキャッチするアンテナだよ

集いの場が必要なのは、特定の世代に限らないんじゃない？

## 要素技術を整理する

役立ちそうな「保有資源」を改めて整理すると、、、

実は、宝の山だった?!

### 要素技術の一例

#### 設備系

・・・就労事業では、オフセット印刷、製パン、畑などがあり、生活施設では、陶芸、絵画などやろうと思えば、容易に調達できるものがたくさんある。 公用車もある！

#### 技術・ノウハウ系

・・・職員や利用者さん業務や作業として身につけているスキルはもとより、趣味など特技があったり、意外な人脈を持っていたりする。社会福祉士などが有すコーディネートスキルも強み！

#### ネットワーク

・・・障がい福祉課、子ども家庭課、地域包括支援センター、コミュニティソーシャルワーカー、民生委員など、アウトリーチに欠かせない資源

## 地域の縁側かわうそ

だれもが気軽に立ち寄ることのできる居場所づくり。  
地域愛着とコミュニケーションをテーマにしたワークショップを開催



## 豪華2本立て

顔の見える関係づくり  
コミュニティの活性化  
困りごとのアンテナ機能

## かわうそギャラリー

アート活動が比較的盛んな湘南地域で、障害当事者の作家さんを積極的に応援して本事業を後押し！



## 活動の概要

地域の縁側かわうそ

開設日・・・月・水・金  
時 間・・・10:00~15:00

\*平日はシニア層の利用を想定

\*夏休み等の期間は、子どもや親子が参加できるワークショップを開催

かわうそギャラリー

開設日・・・平日  
時 間・・・10:00~17:00

展示  
障害当事者の作品  
湘南地域で活動するアーティスト  
この場所で展示したい地域の方

たのしみながら  
ゆるーくつながる  
居場所になる！

2つの居場所を作る上で  
共通のコンセプトを設定

## 広報戦略

幅広く知ってもらってから



小さなコミュニティとつながる

法人のお祭り

⇒施設をあまり知らない人でも参加しやすい

地域の回覧

⇒SNSの時代でも、以外に目を通して  
いる。(特に高い年齢層は見てくれていて、割合参  
加してもらえる)

小学校

⇒子どもやその親世代に情報が伝わる

⇒自治会に入っていない世帯もカバーできる

HP

⇒毎日更新する事が大切

(自らを奮い立たせる意味もある)

コンビニ

⇒誰もが利用する現代の井戸端?!

児童クラブ

絵画教室

そろばん教室

ママ友ネットワーク\*強力

など

こどもや親子参加の呼び込みは、  
少しでも前情報が伝わっていたほうが  
断然、話が早い気がします







口と足で描く芸術 石原 生美男 個展



藍染体験





焼き芋の会



野菜が好きになるパン教室



そば打ち体験

## 毎月の催し

おしゃべりカフェ  
かんたん生け花  
料理クラブ  
染物教室  
そば打ち体験  
気軽に習字  
笑いヨガ  
太極拳  
お抹茶を楽しむ会  
かんたん編み物  
ほか

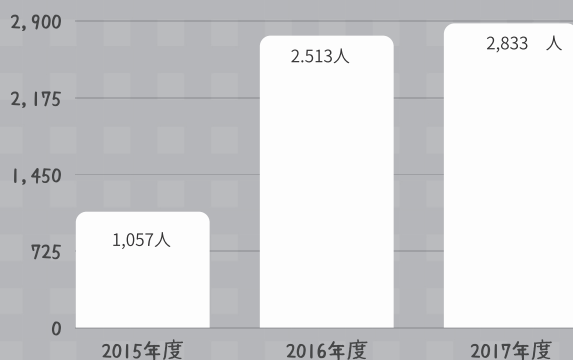
## 季節の催し

夏の思い出を入れる藍染バック  
焼き芋  
野菜が好きになるパン教室  
端切れでリースづくり  
色と模様のワークショップ  
ウッドバーニング  
野菜スタンプ缶バッジ  
焼きタケノコ  
竹のトンネルづくり  
湘南希望の郷花火大会  
ほか

## ギャラリー展示

椎野 勝 切り絵の世界展  
アートオブビーンズ展  
大橋 朋佳 個展  
やさしさと影 展  
生まれつきロマンティスト展  
河西 一隆 個展  
美紅とアリサと太郎の3人展  
絵が好きな息子と絵が好きになった母の親子展  
口と足で描く芸術 石原 生美男 展  
ほか

## 延べ利用人数の推移



Thanks !